

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 22 年 11 月 9 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470700281		
法人名	医療法人社団仁寿会		
事業所名	グループホームもみじ		
所在地	竹原市西野町榎ヶ坪184 (電話) 0846-23-1260		
自己評価作成日	平成22年11月1日	評価結果市町受理日	平成22年1月27日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先UR	http://www.hksjks.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3470700281&SCD=320
------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成22年11月25日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<ul style="list-style-type: none">・ 林に囲まれ、自然豊かな場所にある。・ 医療と連携しているところ。・ 時間はゆっくりであり、穏やかに過ごしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

当事業所は、自然豊かな場所にあり、四季が感じられ、とても静かな環境である。ホーム敷地内には、介護老人保健施設や訪問看護ステーションなどが有り、常に連携や協力体制がある。行事なども合同で行い、常に入居者が楽しく生活が送れるよう、色々な行事企画に取り組みられている。母体が医療機関の事もあり、急変時などの対応など、即対応体制が整っているのも安心感に繋がっている。事業所独自の理念「入居者の方の尊厳を保ち、意志を尊重し安らぎある共同生活を支援する。」を念頭に置き、入居者一人ひとりがゆったりと生活が出来るよう、支援に当たる職員も、明るく穏やかな支援を心掛け、来訪者や面会者も大変訪問しやすい雰囲気である。家庭的な雰囲気のなかで、入居者一人ひとりが居心地良く、我が家のように生活されている様子が伺えた。

kai

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	・ホーム独自の理念は開所当時よりスタッフルームに貼り、自身に意識づけている。 ・法人内の理念は、朝会にて全スタッフ唱和。	事業所独自の理念「入居者の方の尊厳を保ち、意志を尊重し安らぎある共同生活を支援する。」を念頭に置き、理念の達成に向けて、サービス方針及び事業計画を作成及び実施している。各ユニットに掲示し、職員は日々確認、自己点検に努め、日々の支援を実施している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	・行事等で地域のボランティアの方に来てもらったり、こちらから行事に参加し、ボランティアの方と交流あり。 ・運営推進会議にて地域との情報交換あり。	ホームは、市街地から離れており、地域住民との関わりが難しい状況がある。運営推進会議を通じて、地域との情報交換を行い、ホームとして、孤立しないよう積極的に地域行事にも参加している。母体施設と合同で、秋祭りを開催し、地域との関わりをもつよう、努力がなされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	・認知症サポーター養成講座を開催し、市との協力受ける。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	・2カ月に1度開催し、お互いに情報・意見交換し、交流の場としている。	2ヶ月に1回開催している。市の福祉保健課や民生委員、包括支援センターなどの参加者のもと、ホームの現状を報告するなか、建設的な意見交換が行われている。参加者との随時連携を取り合い、その中で情報やアドバイスを頂き、入居者の支援及び運営に繋げている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	・運営推進委員になってもらい、情報交換や協力体制を築いている。	運営推進会議（1回/2ヶ月）に市の福祉保健課の方が参加されている。担当者とは、随時連絡を行い、協力関係を築くように取り組んでいる。認知症サポーター養成講座を開催し、市からの協力を受けている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・天候の良い日には玄関を開けている。 ・居室には鍵をかけない。 ・ベッド柵は全てに使用していない。 	<p>日中、気候が良い時期は、1階の玄関は開放している。それ以外は、安全面として、オートロック扉を活用している。職員一人ひとりが意識しており、危険回避として福祉用具の活用や、職員の手作り品（鈴など）を使用し、安全確保に努めている。その人らしく生活して頂くよう、見守りの支援を行っている。</p>	<p>やむを得ず身体拘束をする場合は、口頭及び書面にて説明している。書類は整備されているが、書面の中に、ニーズに関しては、背景要因（原因）なども取り入れた内容とし、説明する側のいずれもが分かりやすいと受ける内容となるよう望みます。</p>
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>勉強会やミーティング等を実施し、高齢者虐待防止法に関する理解の浸透や遵守に向けた取り組みを行っている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>勉強会を開き職員の理解を深めるようにしている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・入居時に説明を行い、不安のない状態で入居していただいている。 		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・家族代表は現在はいない。 ・面会時等に家族より相談があった場合は受け付け、要望に応えられるようにしている。 ・ご意見箱を設置している。 ・電話にても受け付けている。 	<p>家族訪問時や状態変化があれば、その都度連絡し、生の声を聴くよう努力され、それらの意見などを運営に反映している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>・個人の面談、業務会議等にて意見、提案を聞いている。</p>	<p>週1回開催される、法人内の各事業所代表者が集まる運営会議に管理者が参加し、個々の事業所の内容を把握するなか、グループホームとしての位置づけを確認している。各種会議などにも、常に管理者が参加し、職員の意見を聞く機会を設け、チームアプローチのもと、入居者支援に心掛けている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>・職務行動記録に記載している。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>・研修（勉強会）を行っている。（外部研修・内部研修）</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>・週1回、管理職会議にて。</p>		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>・入居時、サマリーにて本人の情報収集、また、入居後は本人とのやりとりや申し送り等でも情報確認。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>・細やかな情報のやりとりを面会時等に少しずつ行い、信頼関係を築いていく。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>・入居時の聞き取りや本人の生活歴等から、職員間の情報共有ができるようにしている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>・本人のペースに合わせ寄り添える関係。</p> <p>・掃除、調理のやり方等教わる。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>・面会時には居室内にて、本人と家族がお茶など飲みながらゆっくり過ごせる様に環境作りに配慮している。</p> <p>・面会時、家族がすぐに理解できない時は、間に入りリラックス出来るよう話をする。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>・本人に合ったアプローチや外出等支援している。</p>	<p>入居前に出来る限り情報収集を行っている。以前との関係が途切れないよう、個々対応について、家族と十分協議している。希望があれば、不在者投票を実施したり、家族の協力を頂きながら、定期的に外泊が出来る体制作りに努めている。外泊時には状況に関する用紙を利用し、自宅での状況把握にも努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	・入居者同士の関係を普段の生活で見ながら、お互いの関わりを支援している。 ・入居者間にスタッフが入ることで、意思疎通ができています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	・担当ケアマネージャーとの情報交換あり。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	・生活支援計画作成の際、本人より要望等あれば聞き出し、計画内に取り入れたりする。	個々の生活歴を把握するなか、個別対応のサービスを提供している。日々の記録に関しても、入居者個々の発言内容も取り入れ、それらの情報を共有している。本人の役割や楽しみごとを見つけ出し、入居者に寄り添い、役割を持って頂くように、心掛けた支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	・入居時、サマリー内容、家族・本人からの聞き取り、判定会議資料等にてある程度把握する。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	・アセスメントシートの記載内容にて毎日の暮らしぶりを把握する。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>・生活援助計画作成時に本人の意向を聞いたりし、本人・家族にプラン内容を説明し、確認の印をもらう。</p>	<p>半年に1回モニタリングを実施している。入居時や面会時に、家族の意向や希望を把握している。日々の関わりの中から、日誌などにも、本人の発言内容を記入し、それらを基に現状に即した介護計画を作成、実施している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>・ケースカンファレンスを行い、アセスメントシート内容にて情報を共有する。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>・できる範囲内で行っている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>・地域のボランティアの方の来所により交流を行っている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>・希望があればどこでも受診は可能です。</p>	<p>医師の往診を2週間に1回受けて頂き、必要時、歯科の往診体制があり、入居者一人ひとりの健康チェックをしている。協力医療機関等として、併設施設の介護老人保健施設、訪問看護ステーションや協力医療機関との連携や看護体制が整っているなか、緊急時への即対応体制が整っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	・ホーム内訪問看護より1名 在中 。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・相談員、看護師にて。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	・今年、ターミナル1名看取りました。	家族の希望で看取りを実施した事がある。ホームの「重度化した場合における対応に関する指針」に準じ、職員一人ひとりが穏やかな対応を行うなか、ホームとして最大限可能な支援を行っている。また、家族と話し合いをもち、職員全員が対応方針を共有し支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	・連絡体制はとっている。 ・医師・看護師の指示を受ける。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	・年2回、避難訓練を行っている。	消防署の協力を得て、年2回併設施設と合同で防災訓練を実施している。敷地内には、同法人事業所が併設（介護老人保健施設）されており、常に協力体制が出来ている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	・個人の人格を尊重し、その方に合った対応・声掛けには十分気をつけ、職員間でもチェックを行っている。	個人情報やプライバシーが保てるように、各職員が配慮している。入居者一人ひとりの人権・権利を意識しながら、個々に合った支援や声掛けには十分気をつけた対応をされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	・本人の思いや希望を出せるよう時間をかけて対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	・特に決ってはおらず（プログラムはない）、本人のペースで本人の思うように過ごしてもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	・顔なじみの美容院より来てもらい、定期的に散髪してもらいながら会話を楽しんでもらう。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	・個人に合わせた食事の提供。（量や形態等） ・お膳拭き、テーブル拭き等。	昼食・夕食は併設施設の同法人より調理された食事を食べて頂いている。朝食と週1回の昼食は、一人ひとりの好みを取り入れ、ホームで調理している。個々の能力に応じて、配膳、片付けをして頂いている。職員も同じ時間に同じ食事を食べるよう努力され、共に語りながら、家族団欒の雰囲気である。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 水分摂取量1日1000mlを目標にしている。 状態に合わせてトロミ剤等使用。 		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 毎食後、個人に合った口腔ケアを行っている。 		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 各フロアー入居者の排泄パターンはフロアー職員が把握している。 排泄パターンに合った分かりやすい声掛けを行い、排泄動作を促す。 	<p>個々の排泄パターンを把握し、声掛けや見守りを行いながら、自然排便が出来るように努めている。便秘予防の目的として、食材の工夫や1日に、1,000CCを目安に水分摂取に心掛けている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 適度な水分、食事、ラジオ体操等の運動にて便秘を予防している。 		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 一人ずつゆっくりと本人のペースに合わせて入浴している。 	<p>週2～3回の入浴をして頂いている。一人ひとりの希望やペースに応じて柔軟に支援しており、入浴が楽しめるよう支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、 安心して気持ちよく眠れるよう 支援している。	・本人の状態をみながら日中の 休息を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。	・内服薬は職員にて管理してい る。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。	・無理をせず、出来る時に出来 ることをしてもらっている。 (おやつ作り、お楽しみ会、ド ライブ等)		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普 段は行けないような場所でも、 本人の希望を把握し、家族や 地域の人々と協力しながら出 かけられるように支援してい る。	・本人の希望があれば一緒に買 い物に行ったりする。	併設施設への行事へ参加してい る。本人の意思を尊重したり、 時候やその日の気分や体調に 配慮し、外出支援を実施してい る。外出を通じて、地域の皆 様との交流が図れるよう機会 づくりに努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、 お金を所持したり使えるよう に支援している。	・職員にて管理。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・本人より希望があれば行う。 ・定期的に手紙のやり取りを家族としてしている人もいる。 		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域等より花をもらったり、散歩・ドライブがてら取りに行ったりしている。 ・ホーム内に飾り、季節を楽しむ。 	入居者が作成した作品を取り入れ、季節に合わせた模様替えをしている。ホーム内は、洋を基調とした設計である。要所要所の手すりの設置やリビングにはソファや畳部屋が有り、居心地良く、一人ひとりが、我が家のように生活されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・居室内を本人の好きなように使用してもらっている。 ・リビングルームのソファ、玄関先へ椅子を出し話をするなど。 		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・入居時またはそれ以降、本人の使い慣れた家具・小物類を持ち込まれる方もある。 	入居時に相談しながら、自宅で使っていた家具や小物類を持ち込まれている。食事に関しても、茶碗、箸、湯のみ等の使い慣れた物を持ち込まれている。新規入居時にも、居心地良く生活が出来るよう生活空間に配慮している。	
55		○一人ひとりの方を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	<ul style="list-style-type: none"> ・「トイレ」には看板をつけ、わかりやすく、行きやすくしている。 ・自室の分からない人には、ネームを分かりやすい様に作成。 		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム もみじ

作成日 平成 23 年 1 月 6 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	5	身体拘束の書面説明について	家族にわかり易く、本人の状態を詳しく伝える。	書面にサインをもらう時に、本人の状態、発生要因まで記入	平成23年11月30日までに
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。